

ちご
児のそらねひょうじゅん
標準 ③ちご
児のそらね
(宇治拾遺物語)

今ではもう昔のことですが、比叡山ひえいざんの寺に、一人の児ちごがいました。児とは、寺で学問をしながら、身の回りの手伝いをする少年のことです。

ある夜、寺のおぼうさんたちが、「さあ、ぼたもちを作ろう。」と話しているのを、児は耳にしました。児は、楽しみでなりません。けれども、「できあがるのを、起きて待っているのも、みつともない。」と思い、部屋のすみで、ねたふりをしていました。

やがて、ぼたもちができあがったようです。おぼうさんたちが、さわいでいるのが聞こえます。児は、「きつと起こしてくれるだろう。」と待っていました。

すると、一人のおぼうさんが、「もしもし、起きてください。」と声をかけてくれました。児は、うれしく思いましたが、「一度呼ばれただけで返事をするのも、待っていたと思われる。」と考え、もう一度呼ばれるのを待つことにしました。

ところが、別のおぼうさんが、「起こしてはいけない。ぐっすりねているのだから。」と言

い、それきりだれも呼んでくれません。むしやむしやと食べる音だけが聞こえてきます。困った児は、ずいぶん時間がたってから、「はい。」と返事をしました。おぼうさんたちは、大笑いしたということです。

1 おぼうさんたちは、何を作ろうとしていましたか。

2 児が、ねたふりをしていたのはどうしてですか。

3 一度呼ばれたとき、児が返事をしなかったのはどうしてですか。

4 おぼうさんたちが大笑いしたのは、どうしてですか。

ア 児の返事が、あまりにおそかったから。

イ ぼたもちが、おいしかったから。

ウ 児がねぼけていたから。